

## <金標準、年内の利上げ確率低下で巻き戻し相場・・・>



(出所：オアシス)

ポルトガルのシントラで開催された ECB 年次フォーラムでウォーシュ FRB 議長は、パネル討論で「この 4 週間でインフレ期待は低下し、インフレリスクは後退した」と発言し、また共通のメッセージでは「インフレ抑制のためのアグレッシブな利上げは必要なくなりつつある」としている。また求人数は事前予想を上回る 759.4 万人となるも、ADP 雇用統計は前月の 12.2 万人増を下回る 9.8 万人増となり、非農業部門雇用者数でも事前予想の 11 万人増を大きく下回る 5.7 万人増となり、FOMC で年内利上げ確率が 70%まで上昇したが、50%まで低下している。そのため FRB の早期の利上げ観測が後退し、ドルと長期金利の低下を受け、一時 4000 ドルを下回っていた NY 金は週末には時間外取引で 4203 ドルまで戻りを見せている。特に金標準先物も 21032 円、21049 円と下値を 2 度試す値動きから 22204 円まで急速に戻りを行っており、FOMC 以降売られ過ぎた価格の反動を強めた値動きを見せるなど、6 月 18 日の高値 23103 円に向けて戻りを強めて来ると思われる。

### <テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が上昇し、シグナルは切り挙げている。RCI は短期が上昇し、長期も切り上げている。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジ内に移行し、目先の抵抗帯である長期（25 日）が位置する 22304 円に向けた戻りが期待されると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,275,000 円(2026 年 7 月 6 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 95,040 円(2026 年 7 月 6 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>